

令和5年11月食品ロス実態調査報告書
秋田市食品ロス実態調査報告書

令和6年2月2日発行

1 実施概要

■実施日時	令和5年11月16日（木）、17日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター
■作業時間	8：30～17：00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ16名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査資料	<ul style="list-style-type: none">・表記調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。・調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央、東部、西部、南部、北部、河辺・雄和の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【11月16日】 中央（檜山11袋）、東部（東通10袋）、西部（新屋元町又は日吉町5袋）、南部（御所野8袋）、北部（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和（河辺4袋） 【11月17日】 中央（川尻6袋、大町6袋）、東部（添川4袋、旭川4袋）、西部（新屋勝平町6袋）、南部（上北手8袋）、北部（飯島12袋）、河辺・雄和（雄和4袋）・調査資料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約133kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重量を計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手付かず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手付かず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表1）、6地区の100袋の合計重量は、368.3kg、1袋あたりの平均重量は約3.7kgであった。地域別に見ると、①中央は23袋で80.1kg、②東部は18袋で82.4kg、③西部は11袋で31.6kg、④南部は16袋で57.5kg、⑤北部は24袋で88.2kg、⑥河辺・雄和は8袋で28.6kgであった。

図表1 調査対象とした試料概要（秋田市）

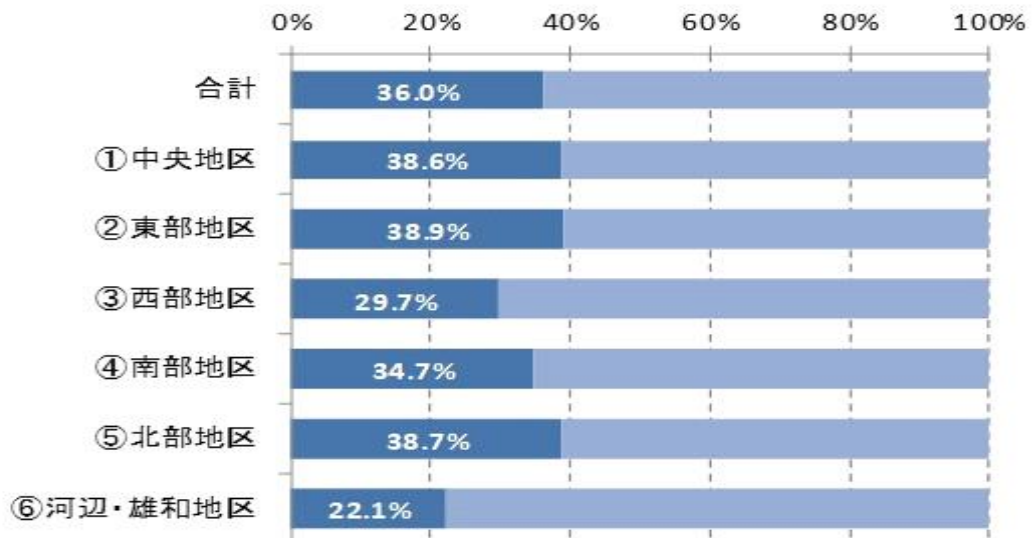
	袋数 (個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	368.3	3,665	3.7	36.7
① 中央	23	80.1	750	3.5	32.6
② 東部	18	82.4	725	4.6	40.3
③ 西部	11	31.6	370	2.9	33.6
④ 南部	16	57.5	535	3.6	33.4
⑤ 北部	24	88.2	965	3.7	40.2
⑥ 河辺・雄和	8	28.6	320	3.6	40.0

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表2）、6地区の合計割合では、36.0%となっている。

地域別に見ると、②東部が最も高く38.9%、次いで⑤北部の38.7%、①中央の38.6%、④南部の34.7%、③西部の29.7%、⑥河辺・雄和の22.1%となっている。

図表2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C (=B/A)	食品廃棄物以外 D (=1-C)
合計	368.32	132.75	36.0%	64.0%
①中央	80.05	30.91	38.6%	61.4%
②東部	82.43	32.09	38.9%	61.1%
③西部	31.58	9.39	29.7%	70.3%
④南部	57.49	19.96	34.7%	65.3%
⑤北部	88.15	34.07	38.7%	61.3%
⑥河辺・雄和	28.62	6.33	22.1%	77.9%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

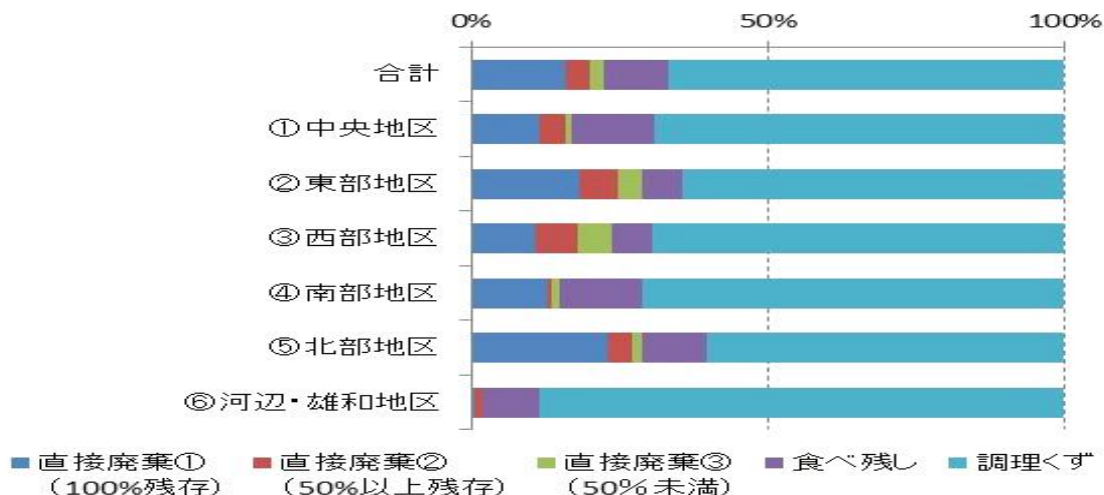
食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計割合では32.0%となっている。

地区別に見ると⑤北部が最も高く38.6%、次いで②東部の34.7%、①中央の29.9%、③西部の29.6%、④南部の27.5%、⑥河辺・雄和の10.4%となっている。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計割合では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち15.3%を占めており、⑤北部で22.5%と高く、次いで②東部が17.7%、④南部が12.3%、①中央が11.1%、③西部が10.6%、⑥河辺・雄和が0.6%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計割合では10.4%となっている。①中央が13.6%と高く、次いで④南部が13.5%であり、②東部と③西部が最も低く6.5%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	32.0%	15.3%	4.2%	2.2%	10.4%
①中央	29.9%	11.1%	4.1%	1.1%	13.6%
②東部	34.7%	17.7%	6.5%	4.0%	6.5%
③西部	29.6%	10.6%	6.9%	5.5%	6.5%
④南部	27.5%	12.3%	0.7%	1.1%	13.5%
⑤北部	38.6%	22.5%	3.9%	1.6%	10.7%
⑥河辺・雄和	10.4%	0.6%	1.3%	0.0%	8.5%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

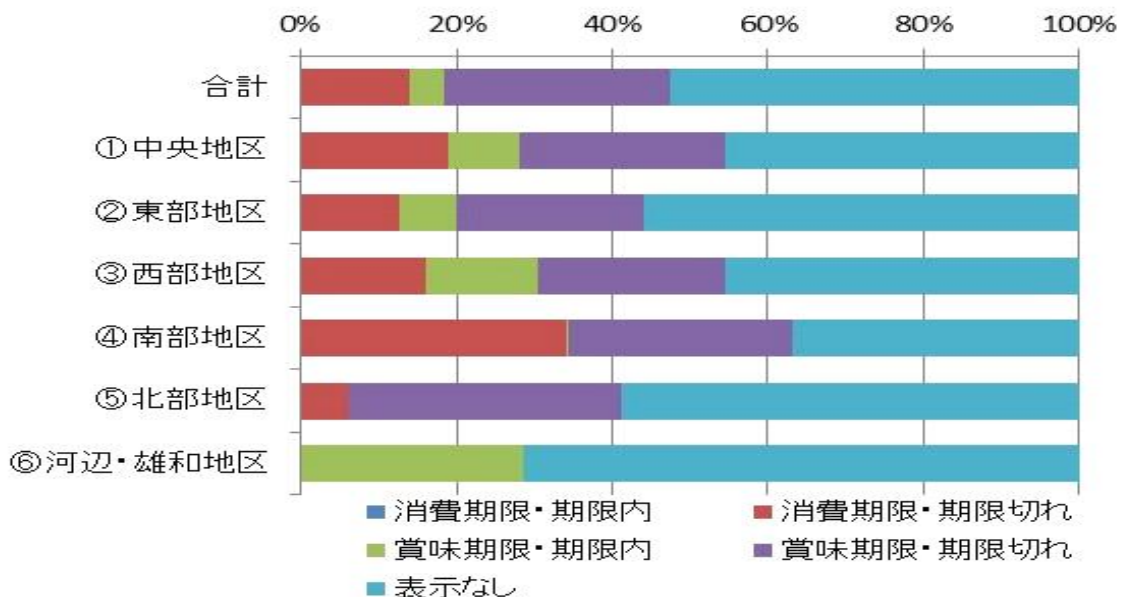
直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計割合では「表示なし」が最も多く52.4%であり、消費期限の表示があったものは13.9%（期限内が0.0%、期限切れが13.9%）、賞味期限の表示があったものは33.7%（期限内が4.5%、期限切れが29.2%）となっている。

消費期限に着目すると、「期限切れ」のみで直接廃棄（100%手付かず）のうち13.9%であった。

「期限切れ」については、④南部地区で最も高く34.1%であった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち4.5%、地区別に見ると⑥河辺・雄和部地区が最も高く28.6%であった。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



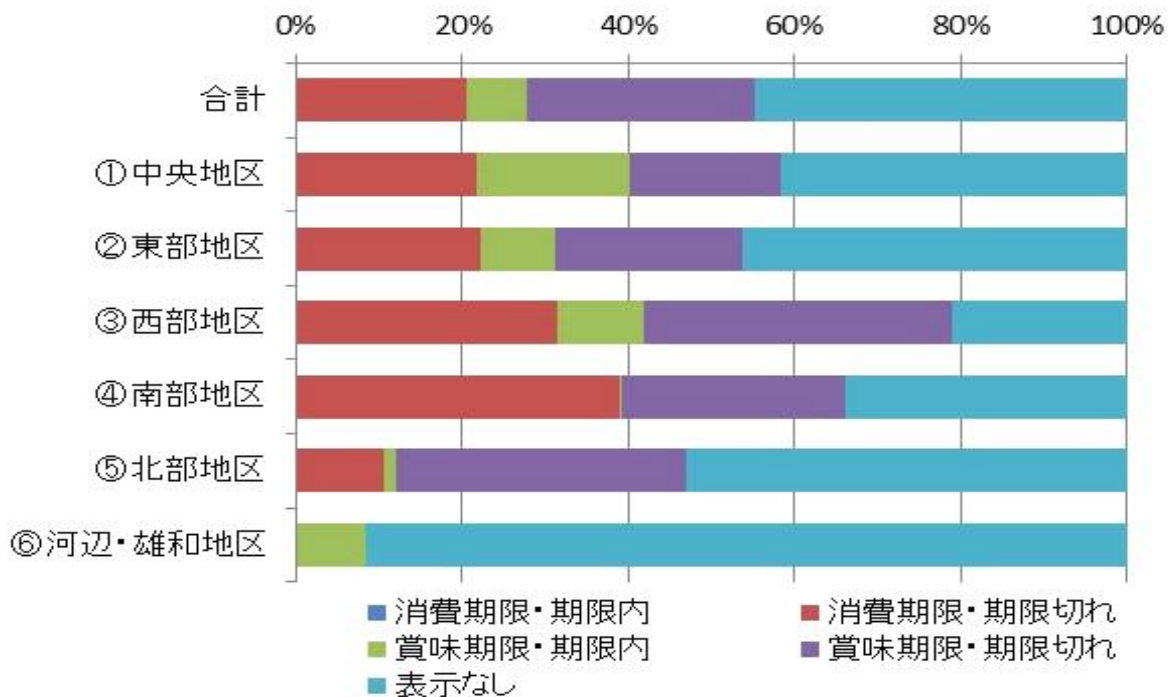
	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	13.9%	4.5%	29.2%	52.4%
①中央	0.0%	18.9%	9.3%	26.5%	45.3%
②東部	0.0%	12.6%	7.4%	24.0%	56.0%
③西部	0.0%	16.0%	14.5%	24.0%	45.5%
④南部	0.0%	34.1%	0.2%	28.9%	36.8%
⑤北部	0.0%	6.1%	0.1%	35.2%	58.7%
⑥河辺・雄和	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	71.4%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く44.9%であり、消費期限の表示があったものは20.4%（期限内0.0%、期限切れ20.4%）、賞味期限の表示があったものは34.7%（期限内7.4%、期限切れ27.3%）となっている。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち7.4%となっている。地区別に見ると①中央地区が最も高く18.6%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	20.4%	7.4%	27.3%	44.9%
①中央	0.0%	21.6%	18.6%	18.1%	41.8%
②東部	0.0%	22.2%	9.0%	22.5%	46.4%
③西部	0.0%	31.4%	10.4%	37.2%	21.0%
④南部	0.0%	39.0%	0.2%	26.9%	33.9%
⑤北部	0.0%	10.4%	1.6%	34.9%	53.1%
⑥河辺・雄和	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	91.7%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和4年度の実績を参考に一人1日当たりの食品ロス発生量を推計すると57.4g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が38.8g/人/日、食べ残しが18.6g/人・日と推計された。

図表6 一人1日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

